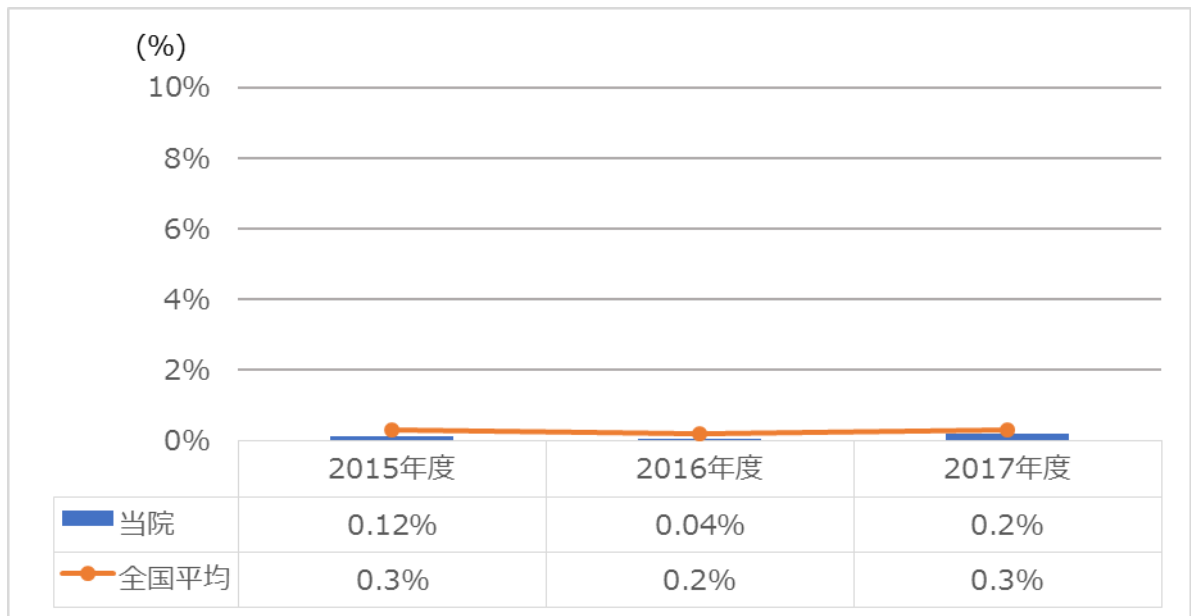


指標3 術後呼吸不全発症率（緊急手術を除く）



<定義>

分子	分母のうち、術後呼吸不全症のある症例（入院後発症した傷病名に呼吸不全の見られる症例）
分母	18歳以上の手術（緊急手術を除く）を行い退院した症例（周産期、産褥期、出産は除外）
期間	2015年度～2017年度（1年毎に集計）
対象	上記期間の退院患者
値の解釈	低い方が望ましい

<解説>

特に大きな手術の後では、気管や肺といった呼吸器に空気が通りにくくなったり、肺炎になったりする危険性が高まります。これは、手術中の麻酔による呼吸の抑制、人工呼吸器の装着、長時間同じ姿勢が続くことなどにより、痰等の分泌物がたまりやすくなることによるものです。また、手術の部位や患者さんの年齢、喫煙歴も影響します。当院では呼吸不全の発症を抑えるため、負担の少ない手術の実施や術後の適切な管理に努めるとともに、患者さんにも手術前の禁煙や呼吸訓練、手術後のリハビリテーションにご協力いただいています。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）